

過ぎて山陰沖に抜け、日本海を北東に進んだ。7日夜には北海道に再上陸した後、8日朝にオホーツク海へ抜け温帯低気圧に変わった。その間、九州のみならず、中国、四国地方や北海道にも大きな被害を与えている。台風14号による雨で、九州、中国、四国を中心に61の観測点で日雨量が観測史上最高記録を更新。内訳は、九州で31箇所、中国、四国が各13箇所、北海道で4箇所となっている。

また山口県岩国市では錦川の増水で国の名勝、錦帯橋の橋脚2基が流失。山陽自動車道岩国IC - 玖珂IC間上り線の一部が崩落して家屋が押しつぶされて3人が死亡。山陽自動車道は12月1日まで通行不能となった。さらに広島県の草津漁港では、流木で港内が埋まる被害が発生するなど、台風14号は全国各地で猛威を振るった。

▶宮崎県日之影町神影山地区の土砂災害現場
〔写真提供 / 宮崎県土木部〕



インタビュー Interview

高い防災意識が人的被害を防いだ

危機管理体制の充実と消防団の活躍、そして住民の高い危機意識

工藤 訓氏 宮崎県日之影町長

台風14号で、宮崎県日之影町は未曾有の災害に見舞われた。同町見立てでは9月3日から6日までの総雨量が1201mmを記録。豪雨で五ヶ瀬川が氾濫し、大規模な土砂災害も発生したが、犠牲者は1人も出なかった。その理由などについて工藤訓町長に伺った。

被害状況について、教えてください。

五ヶ瀬川の氾濫で大規模な洪水が発生し、日之影町役場も庁舎の1階部分の一部が水没しました。また、長時間降り続いた雨の影響で神影地区に土石流が発生し、12世帯が土石流に呑み込まれています。日之影町全体では、住宅の全壊が34棟、半壊が37棟、床上・床下浸水が75棟など大きな被害を受け、被害総額は約98億4900万円にのぼっています。

もっとも、これほどの被害に見舞われたにもかかわらず、奇跡的に死者や重傷者は出ませんでした。

なぜ人的被害が出なかったのでしょうか。

いくつか要因が考えられますが、1つは、

もともと日之影町民は災害に対する危機意識が高く、そのため自主避難がスムーズに行われたことです。次に、2005年6月に役場内に危機管理対策班を立ち上げ、あらかじめ危機管理対応マニュアルを作成していたこと。

マニュアルに災害時の職員の役割分担や連絡体制などを具体的に明記したため、実際に災害に見舞われても、混乱をきたすことなくスムーズに避難誘導を行うことができました。

台風14号の時は、五ヶ瀬川が増水して被害が発生し始めた頃には、住民の避難活動はほぼ完了していました。

消防団の方々が日頃から自治消防活動を積み重ねてきたことが、大きかったと聞き

ました。

日之影町では年2回、「火の元査察」を行っており、どの家にどんな人が住んでいるかを把握しています。

また10年ほど前から、地元消防団が地道に早期の自主避難を住民に呼びかけてきました。10年前当時は自主避難する住民は半数しかなく、呼びかけに対して懐疑的な意見も聞かれていました。

しかしこの10年の間、防災活動のほかに地域行事にも積極的に参加するなど、様々な活動を展開してきました。

こうした地域に根差した活動を行ってきた消防団だからこそ、住民との意思疎通をスムーズに図ることができ、自力での避難が困難な高齢者の把握や支援につながり、人的被害の発生を防いだと考えられます。